



だいじょうぶ。ともにあるこう。

(2010. 8. 24)

# 野村 のむら ようこ 羊子

三鷹市議会議員 (会派 にじ色のつばさ)

議会報告 no.35

## ◆9月議会(予定)

- 1日(水) 本会議 (一般質問)  
午後1時過ぎに野村羊子の一般質問予定  
※第1回請願・陳情締め切り (午後5時まで)
  - 2日(木) 本会議 (一般質問)
  - 3日(金) 本会議 (議案上程)
  - 8日(水) 本会議  
(議案・請願等審議、決算代表質疑)
  - 9日(木)、10日(金)、13日(月) 常任委員会
  - 14日(火)～17日(金) 決算審査特別委員会
  - 21日(火) 調布基地跡地利用対策特別委員会
  - 22日(水) 東京外郭環状道路調査対策特別委員会  
※第2回請願・陳情締め切り (正午まで)
  - 29日(水) 本会議  
(決算委員会審査報告、議案等審議)
- \*全ての会議は予約なしで、傍聴できます。  
\*本会議はインターネット中継します。2日後以降は録画が見られます。三鷹市議会のHPから  
\*日時の詳細は議会事務局へお問い合わせ下さい



## ■議会改革で、多摩市議会を視察

三鷹市の議会運営委員会+会派代表者+希望者計18名で、多摩市議会を訪問。元議会改革特別委員長の安藤多摩市議に話を伺う。



印象的な言葉がたくさんあった。「議会改革を何の為に。本来の議会の権能を取り戻すため。議会が市民と一緒に政策提案をする。議会は意思決定機関であり、市民の意思を受け、議論を公開の中で行い議会として決定する。事業仕分けこそ議会の仕事」等々。多摩市議会の議会改革の中で、出前委員会を実施。出前委員会はホットな問題が起っている場に出かけて、市民意見を聞くために行う。多様な意見を代表する議会が、更に現場の当事者の意見を直接聞き、その上で議会として議論する意味は大きい。

## ■三鷹市の議会改革

2009年度の議会改革の成果が「みたか議会だより274号」に掲載された(市議会HP参照)。5項目のうち、3項目は従来から私が主張していたものだ。

### ①審議会等に出席する市議会議員の委員報酬

議会選出委員として議員は、平均3～4の審議会等



の委員を担う。出席すると通常1万円の報酬。私の場合、年間10万円程になる。月額報酬の委員会もあるので、報酬額がもっと多い議員もいる。報酬の2重取りとして、廃止を主張し続けた結果、条例改正等に対応可能な5審議会のみだが、議員の報酬を無しとなった。半歩前進。

### ②委員会付託の場合、請願者の説明機会を保障

請願は、本会議で即決か委員会付託で審査。いずれも請願提出の市民の発言の場はなかった。委員会で説明の聞くか否かを協議し、賛同された場合のみ説明機会を設けた。今後は委員会審査となれば、原則請願者が委員会で説明する機会を設けることになった。市民に開かれた議会改革への1歩と言えよう。

### ③市議会として市民アンケートを実施

第4次基本計画は行政計画なので、議会がタッチする場がない。報告はされても、審議や承認という意思を示す場が全くない。しかし、今後10～15年の三鷹市の具体的施策を既定していくもの。何もしないのは、議会としての責任を果たしていないとの危惧を私は持っている。そこで、議会は、多様な市民の声を背景に議会としての意思を示すべきだと、第4次基本計画に対しての取組みを求めてきた。

今回、第4次三鷹市基本計画を始め今後のまちづくりに市民の声を反映させるため、市議会として市民アンケートを実施することになった。議会への要望、意見なども集約した上で、議会改革の参考ともするようだ。半歩でも前進は前進、主張が実現されることを素直に喜び、次なるステップに向かいたい。



★ いっしょ広場 ★

10月10日(日) 14時～

## 上映会「犬と猫と人間と」

監督・飯田基晴(118分)

\*一人の猫好きのおばあさんの「不幸な犬猫を減らしたい」という思いから、この映画は生まれました。そして、犬と猫をめぐる旅が始まります。完成までには4年が費やされました。監督は、ドキュメンタリー映画『あしがらさん』で路上に生きる人々に寄り添った飯田基晴。犬と猫が歩くような低い視点から、人と犬猫の関係をしっかり見つめます。

トーク「地域と命、共に生きることを

語りましょう」

数人のゲストをお迎えし、語り合います。

場所；三鷹市市民協働センター第1会議室

参加費；800円 \*小学生以下、無料

(いっしょの会ニュースご持参の方は100円引き)

問合せ；0422-72-2425 (いっしょの会)

issyonokai@nomura-yoko.net



### ■伊達市の障がい者の地域生活支援施策を視察

8月9日の午前午後と2カ所の施設を視察。いずれも1968年から道立知的障害者総合援護施設「太陽の園」を受託運営してきた(福)北海道社会福祉事業団が受託している。

午前は児童デイサービス「あいあいROOM」。就学前の発達に何らかの遅れが疑われる子どもたちの通所・相談施設。北野ハピネスくるみ幼稚園のように、子どもたちの指導訓練と同時に、親への療育相談、更に地域全ての幼稚園・保育園の巡回指導を実施。就学後のフォローもする。



午後は、「だて地域生活支援センター」。知的障害者のコロニーとして全国に先駆けて、障がい者の地域生活への移行を支援してきた太陽の園。現在は、このセンターで約460名の地域生活支援をしている。ちなみに太陽の園の現在の入所者数は児童も合わせて225名。グループホーム・ケアホーム約50カ所で300人が暮らし、民間アパートに約70人、残りは家族同居。また、企業就労が50名、残りは太陽の園の就労支援施設か日中活動施設に通所しているという。

今回の視察で何より印象的だったのは、施設長が二人とも50代(?)の元気な女性で、仕事に熱意と誇りを持って語っていたこと。児童デイの施設長は、3歳児検診なども全て同席し、人口4万弱の伊達市内の疑いのある幼児は全て把握し、診断未確定のグレーゾーンもフォローしていると言った。小さな町とはいえ、その熱意には頭が下がる。彼女の活躍で、幼保小連携の一貫支援が可能になっ

ているのだろうと思う。また、生活支援センター長からは、長年の実績を積み上げてきた自負が、当事者尊重の支援として実践されている様子うかがえた。ケアホームの見学を引率してくれた支援員(ケアマネ的役割)も女性で、女性のパワーを感じた視察だった。

■8月7～9日は、全国フェミニスト議員連盟夏合宿in函館に参加。非常に盛り沢山の充実した内容だった。全国の女性議員たちと交流し、パワーをいただいた。twitter.com/hitujinomuraをごらん下さい。



### ◆ふじみ新ごみ処理施設 着工

三鷹市役所の南側ふじみ衛生組合の不燃物処理施設のあった場所に、いよいよ新しいごみ焼却場の建設工事が着工された。この間、住民による地元協議会では、将来を見据えての公害防止協定についての協議を重ねている。

23区の焼却場では、プラスチックの混合焼却を始めたためか、トラブルが相次ぎ、水銀が基準値を超えたため停止するという事態にもなっている。三鷹市の新焼却場でモリサイクルできないプラスチックは焼却される予定だ。新技術であっても、運用は人間。住民の健康と命を守ることで協定を結んで欲しい。

野村羊子といっしょにつくる三鷹の会 No.35

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-30-12-104

Tel&Fax:0422-72-2425

E-mail: issyonokai@nomura-yoko.net

Url: http://www.nomura-yoko.net

